



関市が もっといいまちに なるための提案書



関市まちづくり市民会議の歩み

第2期関市まちづくり市民会議（以下、市民会議）は、平成25年10月にはじまりました。毎月1回第3火曜日に全体会、そして必要に応じて部会を開催し、これまで10回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、24名の公募の市民により構成されています。20代～70代の幅広い年齢層となっており、大学生は5人の参加があり若年層も厚くなりました。今期の市民会議は、まず自分が関市のまちづくりに対する問題意識を发表し合うことからはじめました。

平成25年12月の第3回から部会に分かれました。A部会：子どもの教育を考える、B部会：まちづくり（議会・行政）への市民意識向上を考える、C部会：地域（コミュニティ）のつながりから考える、D部会：少子高齢化から夢のあるまちづくりを考えるといった、それぞれのテーマから具体的に提案する政策を検討してきました。

〈まちづくり市民会議の歩み～全体会～〉

	開催日	会議内容
第1回	平成25年 10月15日	マトリクス自己紹介、問題意識の発表会
第2回	11月30日	勉強会「関市のまちづくりを考えるための公共政策学の視点」若生幸也さん(政策アドバイザー)
第3回	12月17日	部会分け、地域課題を議論する
第4回	平成26年 1月21日	部会で取組む関市の課題について3つ程度に絞る
第5回	2月18日	部会で取り組む地域の課題を選定する
第6回	3月18日	市長との中間報告交流会 ワールドカフェ形式で市長と意見交換
第7回	4月15日	提案事業を構築する
第8回	5月20日	提案事業を構築する
第9回	6月17日	提案事業を決定する

第 1 期

まちづくり市民会議の提案は？

ちょうど1年前に第1期まちづくり市民会議が政策提案を行いました。各提案に対して担当課から出された回答と、採用された提案(マーク付)については現在の進捗状況を記します。回答は昨年夏時点のものです。



「親子読書コンクール」(学校教育課)

回答: 来年度、実施する方向で検討します。内容・時期・方法等(名称を含め)については、学校と協議してまいります。

8月27日 13:30~16:00 の予定で「ファミリー読書発表会」を実施する計画で進めています。家庭での読書について実践交流をし、より豊かな読書生活の扉を開く機会にしたいと考えています。学校等から推薦のあった家族(3~4組)の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表、市立図書館の取組についての発表を予定しています。



「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

回答: 昨年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。

昨年度から行っている中学生リーダー養成研修では、今年度は、他市の中学生(宮城県東松島市、富山県氷見市)を招待し、互いの町についての情報交流等を通して、自分のふるさと関市を見つめることを大切にします。また、洞戸・板取の中学校再編、武儀・上之保の中学校再編に向けてのさまざまな取り組みの一つとして、子どもたちの地域間交流を積極的に進めていき、スムーズな再編につなげたいと考えています。



「学校のHPの改革」(学校教育課)

回答: ご指摘いただいた更新がされていないようなHPについては改善を図ってまいります。ご提案で紹介していただいたHPを目指すということにつきましては、現在のところ実施する考えはありません。なお、HP運営について、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、来年度をめどに、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成を考えています。

HP運営については、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるようなシステムの導入を考えています。今年度中にシステムが導入されれば、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成を行っていきます。

提案 4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

回答: 学校が管理者となるSNSの活用は、現時点での運用は考えておりません。
しかし、ご提案の根底にある「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は大切です。子どもの健やかな成長のために、各校や市教委としても考えていかなければならない課題だと捉えています。

「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとうとう時間もかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。

提案 5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

回答: 子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思っています。

提案 6

「関シティバス・デマンドバスの導入」(市民協働課)

回答: 経費の削減と利便性の向上、多様化する市民ニーズにも柔軟に対応できるデマンドバス(タクシーの活用)を、平成26年度中に地区を限定して試行的に導入します。

現在4地域(富野、田原、迫間、向山)で導入している簡易型デマンド運行バスは、10人から15人乗りのワゴンを利用し予約に応じた運行を行っております。

現在、定時定路線で運行している関シティバスの中で、わかくさ・下有知東線、下有知西線、小瀬線については、関市のバス運行評価において運行形態の見直しを行うという結果が出ました。それを受けて上記3路線の運行エリアにタクシー車両を利用したデマンド運行を今年度、試行的導入に向けて検討、調整中です。

タクシー車両を利用したデマンド運行のメリットとして、従来より乗降ポイントを増やすことにより、

自宅から乗降場所が近くなること、運行本数は概ね 1 時間に 1 本程度を考えており、これまでに比べて行きたい時間に目的地へ行けることが挙げられます。

デメリットとして、運賃が従来のシティバスと比べて高くなること、予約が必要であるという手間、概ねのダイヤしかないため予定通り目的地に到着できないことがあります。

現在このような点を理解していただくよう、導入予定地域での説明会を開催するなど、関係機関との調整、協議を行っています。

提案 7

「シティバス・定期乗車券の導入」(市民協働課)

回答: 定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100円券が11枚綴りで1,000円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。

提案 8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」(市民協働課)

回答: 地域公共交通を維持していくためには、市民意識の高揚は、欠くことのできないものであり、市民サポーター制度の導入は、たいへん重要かつ意義があると考えます。関シティバスのサポーター制度は、行政主体ではなく、市民の気運が高まり、市民が主体となるサポーター組織が立ち上がることが望ましいと考えており、今後、その手法や母体を検討していきます。また、長良川鉄道においては、現在、企業を中心とした長良川鉄道協力会すでに組織されています。その組織に、個人会員を募り、支援金をお願いするなど、サポーターを取り込んでいく仕組みを考えていきます。また、観光施設や商店の割引などのサポーターの特典については、今後、協力企業や店舗を募集し活用を図っていきます。

長良川鉄道につきましては、マイレール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいで様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいています。シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。

現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいていますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」(市民協働課)

回答: 来年完成を予定している公共交通の乗り継ぎ拠点である関駅西口交通広場には、観光案内所を整備します。新たな利用客の取り込みは重要であるため、施設のオープンに合わせて公共交通の利用者へ、主要な観光施設の最寄りバス停や路線を明記したチラシを配置したいと考えています。また、観光ガイドブックとバス路線図を合わせるなどして、観光への公共交通の利用を促進していきます。

なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

平成 26 年 4 月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としての PR および、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」(市民協働課)

回答: トロッコ列車の導入は、長良川鉄道の魅力である自然や風景を楽しむことができ、観光目的の利用者を呼び込む目玉になると考えます。現在、長良川鉄道沿線市町の職員で研究会を設立し、「再構築事業制度の導入」「市民鉄道の再生」「長鉄観光化」を重点課題として長良川鉄道の再生に取り組んでいます。

今後、新たな車両を購入する中で、トロッコ列車も含めワイドビュー車両など大きな窓から景色が楽しめるような車両の導入を長良川鉄道に提案します。

平成 26 年 3 月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長(取締役)に対して観光用車両の提案を行いました。

長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。長良川鉄道は提案に対して沿線 5 市町の協議に向けて準備を進めています。



平成 25 年 3 月 18 日市長との意見交換会

第 2 期まちづくり市民会議

委員

長谷部雄也 (会長) / 太田陽大 / 太田尚文 / 西村朋也 / 平川貴久 / 藤村修
大野克幸 / 小関加奈 / 神谷保夫 / 亀井専 / 橋谷光喜 / 早川貞子 / 山田銑次
石井克彦 / 包子賢一 / 多田富士夫 / 塚原芳博 / 長瀬史弥 / 古田進 / 松田一浩
宇佐見将太 / 臼田好希 / 川嶋涼子 / 山田武夫

発行日

2014 年 7 月 13 日

発行

関市まちづくり市民会議 (事務局 : 関市市民活動センター)
関市千年町 2-18-1 安桜ふれあいプラザ 1F
TEL 0575-24-7772 FAX 0575-24-7660
emai: info@seki-siminkatudo.com